

韓国語オノマトペの音声象徴に関する一考察

李 殷娥 (イ・ウナ)

Consideration of Sound symbolism of Korean Onomatopoeia

Eunah LEE

Abstract : This text discussed the sound symbolism by the voice alternation of the complete repetition type of Korean Onomatopoeia and the imperfect repetition type and the meaning functions. The alternation type of the complete repetition type includes the vowel alternation type and the consonant alternation type, and the alternation type of the imperfect repetition type includes the vowel alternation type, the consonant alternation type, and the syllable alternation type. The meaning function has «continuousness», «plural», and «emphasis» for the complete repetition type, and the imperfect repetition type can be classified into «variety» and «feelings». The imperfect repetition type supplements the range not expressible by the complete repetition type. The alternation type of the complete repetition type and the imperfect repetition type reflects the sound symbolism by the voice alternation that is the feature of Korean Onomatopoeia.

要旨 : 本稿は、韓国語オノマトペの完全反復形と不完全反復形の音声交替による音声象徴と意味機能について論じた。完全反復形の交替形には、母音交替形、子音交替形があり、不完全反復形の交替形には母音交替形、子音交替形、音節交替形がある。意味機能は完全反復形の場合「連続」、
「複数」、
「強調」、不完全反復形の場合「多様」、
「心情」に分類できる。不完全反復形は完全反復形で表現できない範囲を補っている。完全反復形と不完全反復形の交替形は韓国語オノマトペの特徴である音声交替による音声象徴を反映している。

1. は じ め に

韓国語オノマトペの重要な特徴として、①様態副詞 (Manner Adverb) としての用法が基本用法であること、②反復形が豊富であること、③音声交替による音声象徴 (Sound Symbolism)¹を伴うこと、の3点を挙げる事ができる。本稿では、これらの特徴の中から③音声交替による音声象徴に焦点を当てて論じることにする。音声象徴とは、音の交替によって異なる語感や意味をあらわすことをいう。音声象徴のあらわれ方には2つの異なるタイプがある。第1のタイプは音の違いが語感を異にする交替形を造り出す場合である。これはオノマトペに限らずさまざまな品詞にもあらわれる。第2のタイプは、オノマトペ語彙全体を見ると特定の音に一般的な意味的共通性が見られる場合である。このタイプの音声象徴は、オノマトペだけに限らず一般語彙にもある程度存在する。また、程度の差はあるがどの言語にも存在する言語普遍的な面もある。

韓国語オノマトペの音声交替による音声象徴は、母音交替、子音交替そして音節交替によって語感や意味の差をあらわす。母音交替、子音交替、音節交替によって得られた交替形はその過程や種類がかなり複雑かつ多様であり、語感を豊かにする機能を持っている。これはオノマトペに限ったことではなく、一般語彙でもこうした音

の交替による音声象徴は見られる。韓国語オノマトペの反復形も広義に考えれば音声交替と判断することができる。したがって、同一要素を単純に反復する完全反復形（同音反復形）も音の一部を変えて反復する不完全反復形（類音反復形）も音声交替形をもっている。完全反復形の交替形は母音交替と子音交替によるもの、そして不完全反復形の交替形は母音交替、子音交替そして音節交替によるものがある。本稿では、韓国語オノマトペの完全反復形と不完全反復形の上述した音声象徴の2つのタイプのうち第1タイプについて論じるとともにそれぞれの意味機能についても分類していく。

2. 完全反復形（同音反復形）

2.1 母音交替

母音交替は子音交替より遥かに生産的であり、語感の差もより明確である。韓国語では母音の交替がオノマトペの交替形を造るのに積極的に活用されている。韓国語の母音は陽母音と陰母音に区分されている。韓国語オノマトペは陽母音と陰母音の交替形を造っており、音の相違によって語感を異にしている。一般的に陽母音と陰母音の間には次のような語感の対立²があるという。

陽母音：아, 애, 오, 외, 요, 와, 왜, 아

軽・明・清・薄・剛・強・近・親・小・少・急・短・狭・濃・細

陰母音：어, 에, 여, 우, 위, 유, 워, 으, 이, 의

重・暗・濁・厚・柔・弱・遠・疎・大・多・緩・長・広・淡・太

このような陽母音と陰母音の違いにより、次の(1)のような語感を異にするオノマトペの交替形が造られている。

(1) a) 어~아

건들건들（わりに大きい物体が揺れ動くさま：ゆらゆら）～간들간들（小さいものが軽く揺れるさま：ゆらゆら）

너붓너붓（ひらひら）～나붓나붓（ひらひら）

덕지덕지（垢などがたくさんこびりついているさま：べっとり、べたべた）～닥지닥지（垢やほこりなどが多くへばりついているさま：べたべた）

떨렁떨렁（大きな鈴が鳴る音：ちりん）～딸랑딸랑（小さい鈴などが一度鳴る音：ちりん、ちりりん）

버글버글（うようよ）～바글바글（（人・動物・虫などの群れが）うようよ）

병실병실（にこにこ）～방실방실（にこにこ）

빠끔빠끔（すばすば、ふかふか）～빠끔빠끔（盛んに煙草を吸うさま：すばすば）

선들선들（（涼しい風が）そよそよ吹くさま）～산들산들（そよそよ）

철썩철썩（波が強く打つ音：ばしゃっと）～찰썩찰썩（波打つ音：ばしゃっと）

버석버석（がさがさ）～바삭바삭（かさかさ）

번쩍번쩍（ぴかぴか）～반짝반짝（きらきら）

b) 우~오

구물구물（のろのろ）～고물고물（もぞもぞ）

구불구불（曲りくねったさま：くねくね）～고불고불（曲りくねったさま：くねくね）

꿈지럭꿈지럭（ゆっくり体を動かすようす）～꿈지락꿈지락（わずかにゆっくり身動きするようす）

둥글둥글（一つ一つが一樣に丸いさま：まるまる）～동글동글（多くの物が一樣に丸いさま）

둥실둥실（大きい物体が軽く浮いているさま：ふわり）～동실동실（小さいものが浮かんで軽やかに動くさま：ふわり）

수군수군（ひそひそ）～소곤소곤（ひそひそ）

우글우글（人ややや大きい生物が群がり集まってうごめくさま：うようよ、うじゃうじゃ）～오글오글（う

ようよ, うじゃうじゃ)

c) 으~아

뜨끔뜨끔 (ちくちく) ~따끔따끔 (ひりひり)

뜨끈뜨끈 (非常に熱く感じるようす: ほかほか) ~따끈따끈 (あつあつ)

슬금슬금 (こそこそ) ~살금살금 (人の目を盗んでひそかに物事をするさま: こっそり)

썉썉 (あまり力を入れずゆっくりこすったりもんだりする音) ~씩씩 (ごしごしこすったりもんだりする音)

흔들흔들 (ぐらぐら) ~한들한들 (ゆらゆら)

d) 우~아

물렁물렁 (ふよふよ) ~말랑말랑 (ふわふわ)

부스럭부스럭 (がさっと) ~바스락바스락 (かさっと)

부들부들 (ぶるぶる) ~바들바들 (ぶるぶる)

e) 이~아

찌그릭찌그릭 (ぶつぶつ) ~짜그락짜그락 (いがみ合ったり不平を並べたりするようす)

질금질금 (ちびちび, じくじく, ちょびちょび) ~잘금잘금 (ちびちび, ちょろちょろ)

f) 이~야

길쭉길쭉 (みなそろって長めなさま) ~갈쭉갈쭉 (すべてがちょっと細長いさま)

g) 이~애

미끈미끈 (ぬるぬる) ~매끈매끈 (すべすべ)

빙빙 (しきりに回るさま: ぐるぐる) ~뱅뱅 (小さいものが続けて回るさま: くるくる)

싱글싱글 (にこにこ) ~생글생글 (しきりににこやかに笑うさま: にこにこ)

히히 (せせら笑い声: ひひ) ~해해 (人をあざける笑い声: へらへら)

h) 에~애

땡그렁땡그렁 (大きな鈴や風鈴などが揺れて出る音: ちりんちりん) ~땡그랑땡그랑 (鈴などの鳴る音: りんりん)

땡경땡경 (金属などがぶつかり合って出る音: かあんかあん~땡강땡강 (金属片などがぶつかったりして出る澄んだ音: ちりんちりん)

i) 의~애

희끗희끗 (白色が点在するさま: 点々と白く) ~해끗해끗 (若白髪などがちらほらするさま)

희롱희롱 (ふざけて戯れるさま: へらへら, いちゃいちゃ) ~해롱해롱 (しきりにふざけるようす: へらへら)

j) 웨~왜

웁웁 (げえげえ) ~웁웁 (しきりに吐き出す音: げえげえ)

꽤꽤 (怒鳴り散らす声: ぎゃあぎゃあ) ~꽤꽤 (怒鳴り散らす声: ぎゃあぎゃあ)

以上のように, 母音交替は非常に多様である。通常, 陽母音と陰母音の交替形は対立しており, 語感の差があるとされている。また, 実際の使用頻度においては交替形によって差がある。最も典型的な母音交替は, a) 「아~어」, b) 「오~우」 c) 「아~으」, で例も豊富で使用頻度も高い。韓国語オノマトベでは, 母音交替により, 大小, 多少, 明暗, 強弱, 軽重などの対立した意味を表現しているが, このような語感の差の日本語訳をつけるのは難しい。日本語にすると陽母音, 陰母音いずれのオノマトベも同じ意味になる。d) 「아~우」の交替形は硬軟, 強弱, 大小を母音交替により表現している。陽母音, 陰母音どちらのオノマトベもよく使われる。語感の差もそれほど大きくない交替形である。また, e) 「아~이」 f) 「야~이」 g) 「애~이」のように「이」は「아」, 「야」あるいは「애」に交替されることから陽母音より陰母音「이」のオノマトベ交替形の使用頻度が高いことが推測できる。e) 「아」 f) 「야」は前舌非円唇母音であり, 「이」の方が発音しやすいので陰母音のオノマトベの使用頻度が高い。h) 「애~에」の場合, 複合母音「애」[ɛ] は「아」と「이」の組み合わせで, 広い「エ」[ɛ]を表わす。一方, 複合母音「에」[e] は「어」と「이」の組み合わせで, 狭い「エ」[e]を表わす。しかし, 韓国語

では最近この二つの「エ」を発音上は区別しなくなっている。「탱그렁탱그렁 (ちりんちりん) ~ 탕그랑탕그랑 (りんりん)」, 「땡경땡경 (かあんかあん) ~ 땡강땡강 (ちりんちりん)」には「아」~「어」の交替形も含まれており、鈴や金物の大小によってオノマトペが異なるということを母音交替で表わしている。i) 「애~의」の例では陰母音「의」は不安定な発音で、環境によって「이」で発音される場合がある。j) 「왜~뵤」の「왜」は二重母音で半母音 /w/ と複合母音「애」の組み合わせで [we] で表記する。「뵤」も「왜」と同様、二重母音である「뵤」は半母音 /w/ と複合母音「에」の組み合わせで出来ており、発音記号では [we] で表記する。しかし、前述したように「애」[ɛ] と「에」[e] は発音上区別をしない傾向にあるので、「왜」と「뵤」も発音上区別しないのである。したがって、「왜~뵤」の交替形は存在するが、母音交替による意味の差は見られない。

2.2 子音交替

子音交替による象徴的な意味をもつ韓国語オノマトペは母音交替より生産的ではない。韓国語の子音には、平音・濃音・激音³の3つの区別がある。この区分がオノマトペの交替形に用いられる場合、程度や大きさなどの違いについての語感の差は平音<濃音<激音の順となり語感が強くあるいは激しくなることを表している。濃音は強い語感を、激音は激しい語感を表わしており、次のような語感を異にする交替形が造られる。

(2) a) ㄱ ~ ㄲ ~ ㅋ

고깃고깃 (くしゃくしゃ) ~ 꼬깃꼬깃 (しわくちゃ)

구불구불 (曲がりくねっているさま: くねくね, うねうね) ~ 꾸불꾸불 (曲がりくねるさま: くねくね)

강중강중 (大股で跳ね上がるように歩くさま: ひょいひょい) ~ 경충경충 (びよんびよん)

꿀꺽꿀꺽 (ごくごく) ~ 꿀꺽꿀꺽 (がぶがぶ)

b) ㄷ ~ ㄸ ~ ㅌ

달달 (豆や胡麻などをかき混ぜながら炒るさま: ころころ) ~ 딸딸 (豆や胡麻などをかき混ぜながら炒るさま: ころころ)

대굴대굴 (小さくて固いものが続けて転がるさま: ころころ) ~ 때굴때굴 (小さくて固いものが続けて転がるさま: ころころ)

댕댕 (真鍮の器・銅鑼などをたたくときに出る音: かんかん) ~ 땡땡 (小さい鐘・鉦などが続けざまに強く鳴る音: かんかん)

땅땅 (銃砲を打つ音: ずどんずどん) ~ 탕탕 (銃砲を打つ音や火薬などが爆発する音: ぱんぱん)

c) ㅂ ~ ㅃ ~ ㅍ

반들반들 (つるつる, つやつや) ~ 뽀들뽀들 (つるつる, つやつや)

바들바들 (恐怖・怒り・寒さなどのため震えるさま: ぶるぶる, わなわな) ~ 파들파들 (ぶるぶる, わなわな)

부석부석 (肌が少しむくんでいるさま: ぶよぶよ) ~ 푸석푸석 (ばさばさ)

질벅질벅 (どろどろ) ~ 질퍽질퍽 (じめじめ)

d) ㅅ ~ ㅆ ~ ㅈ

줄줄 (少量の水が絶え間なく流れる音: ちょろちょろ) ~ 쫄쫄 (少量の水が速く流れる音) ~ 출출 (液体が容器から少しずつあふれるようす: ちょろちょろ)

중알중알 (不平不満を言うようす: ぶつぶつ) ~ 쫄알쫄알 (小さい声で不平を言うようす: ぶつぶつ)

질금질금 (水などが少しずつ出たりこぼれたり止まったりするようす: ちょろちょろ) ~ 찰금찰금 (液体が少しずつ出ては止まるようす: ちょびちょび)

질질 (液体などがたれ流れるさま: だらだら) ~ 찰찰 (液体などがたれ流れるさま: だらだら)

e) ㅁ ~ ㅂ

살랑살랑 (そよそよ) ~ 쌀랑쌀랑 (ひんやりした風が吹くようす: そよそよ)

상글상글 (愛想よく笑うようす: にこにこ) ~ 쌍글쌍글 (にこにこ)

생긱생긱 (にこにこ) ~ 뽁긱뽁긱 (にこにこ)

속덕속덕 (盛んにささやくようす：ひそひそ，こそこそ) ~ 쑥덕쑥덕 (小声でささやき合うようす：ひそひそ，こそこそ)

d) 「줄줄 (少量の水が絶え間なく流れる音：ちょろちょろ) ~ 쫄쫄 (少量の水が速く流れる音) ~ 쓱쓱 (液体が容器から少しずつあふれるようす：ちょろちょろ)」のように平音・濃音・激音の3つの交替形が同時にあらわれるのは滅多になく，平音・濃音の交替形が最も多い。a) 「ㄱ~ㄲ~ㅋ」의 꿀꺽꿀꺽 (ごくごく) ~ 꿀꺽꿀꺽 (がぶがぶ) のような濃音・激音の交替形もそれほど多くない。b) 「ㄷ~ㄸ~ㅌ」의 例も平音・濃音の交替形はよく用いられるが，平音・濃音・激音が同時にあまりあらわれないのと同じように平音・激音の例もほとんどない。c) 「ㅅ~ㅆ~ㅈ」は，平音・激音の交替形が多くあらわれている。e) 「ㅅ~ㅆ」の場合，「ㅅ」は激音がないため当然，平音・濃音の交替形のみ存在する。

以上の例のように韓国語の平音・濃音・激音の対立は，語感を「強める」働きをしていると考えられる。平音・濃音・激音の3つの交替形が一つの単語で現れるのはそれほど多くない。平音・濃音の交替形が最も多く，濃音・激音の交替形の数も多くない。また濃音の交替形は平音の単語の強調語の場合が多く，元々濃音だった単語が平音に交替されてその程度が弱くなったことを表わすものではない。同様に，元々激音だったのがその程度を弱めるために濃音あるいは平音に交替されることはない。

2.3 完全反復形 (同音反復形) の意味機能

完全反復形オノマトペの象徴的意味機能を見ていくと，その意味を厳密に区分することは非常に難しい作業である。比較的意味区分がはっきりしている例に基づき，《連続》，《複数性》，《強調》に分けることにする。しかし，境界が曖昧で用例によっては多様に解釈できる場合もある。

3.1.1 連続⁴

同一の要素を単純に反復するという完全反復形の構造が，音や声，動作や事象が反復して継続することを象徴的に表わすのはごく自然なことである。完全反復形オノマトペの使用例の大半はこの意味で用いられる。また擬声語・擬音語の場合，反復形は声や音の反復を意味する。

(3) 환유도 다른 수건으로 빗물이 뚝뚝 떨어지는 머리를 닦았다. (ファニユも別のタオルで雨水がぼたぼた落ちる頭をふいた。)【手紙】

아무렇지도 않은 듯이 물을 벌컥벌컥 마셨습니다. (何でもないかのように水をがぶがぶ飲みました。)【童話】
정인은 이제 엿엿 소리내어 울기 시작했다.

(チョンインはもうわんわんと声を張り上げて泣き始めた。)【手紙】

환유의 손가락이 발가락 사이를 문지르자 정인이 발가락을 꼼지락거리며 키키 웃었다. (ファニユの指が足の指の間をこするとチョンインは足の指をしきりに動かしながら くすくす 笑った。)【手紙】

(3) の例はいずれも反復された音や声を表している。「뚝뚝」(ぼたぼた) と「벌컥벌컥」(がぶがぶ) は単一形も可能な擬音語であるが，単一形であれば水滴が1回だけ落ちることあるいは水をごくりと一息に飲むことを表し，反復形はその音が何度か反復されることを表わす。

人や動物の動作には，歩くこと，走ること，食えること，まばたきをすること，首や手を振ること，体を震わせること，搔いたり摩ったりすることなど，単純なしぐさが反復的に繰り返して構成されるものが多い。また，自然界の事象にも，物が揺らぐことや光などが点滅することなど，反復的なものがある。このような反復的に繰り返される動作や事象の様態を表わすのに反復形の擬態語が効果的に用いられている。

(4) 깊은 바다 밑에서 온 의사는 오랜시간 진찰을 하더니 고개를 갸웃갸웃했습니다. (深い海の底から来た医者は長時間診察してから首をしきりに傾げました。)【童話】

흥부는 허리를 굴신굴신하면서 ‘형님, 날은 춥고 벌이할 것도 없으니 어디 먹을 것이 있어야지요.’

(フンブはぺこぺこしながら、「お兄さん、外は寒いし仕事もないから食べ物がありません。」)【童話】
 저 편 찌리덤불 밑으로 무엇인지 깡충깡충 뛰어가는 것을 보았습니다. (あちらの萩のやぶの下へ何かがびょんびょん跳ねていくのを見ました。)【童話】
 두리번두리번거리다가 눈에 잘 띄는 나뭇가지 위에 걸어놓았습니다. (きょろきょろして、目立つ枝の上に掛けておきました。)【童話】
 눈 앞이 캄캄해지며 온몸이 부들부들 떨렸습니다.
 (目の前が真っ暗になり全身ががたがたと震えました。)【童話】

(4)의 예의 「가웃가웃」(しきりに首をかしげるさま), 「굽신굽신」(ぺこぺこ), 「깡충깡충」(びょんびょん), 「두리번두리번」(きょろきょろ), 「부들부들」(ぶるぶる)は,それぞれ,何度も首を傾げるさま,繰り返してお辞儀をするさま,何度も覗き込むさま,反復的に飛び跳ねるさま,しきりに辺りを見回すさま,しきりに体を震わせるさまを反復形によって象徴的に表したものである。明確に反復とは意識されなくても,ある音声や動作や現象などが1回限り瞬時的に生じるのではなく継続的,持続的に生じていることを示すのにも,反復形のオノマトペが用いられる。

(5) 정인이 방실방실 웃으며 물었다. (췌닌은하하하하하면서尋ねた。)【手紙】
 바보의 아버지는 농사일이 너무 바빴기 때문에 일도 할 줄 모르고 빈둥빈둥 돌아다니며 실수만 저지르는 바보아들을 대신 보내기로 했습니다. (バカの父は農業があまりにも忙しかったため、仕事もできずぶらぶら歩き回って失敗ばかりしでかすバカ息子を代りに行かせることにしました。)【童話】
 그런데 그 다음 날은 반갑게도 굵은 장대비가 주룩주룩 내렸습니다. (ところがその翌日はうれしいことに雨がざあざあと降りました。)【童話】
 ...전우치는 왕연희의 머리에 개의 피를 획 뿌리고 중얼중얼 주문을 외웠습니다.
 (チョヌチはワンヨニの頭に犬の血をさっとかけてぶつぶつ呪文を唱えました。)【童話】
 겨울 숲에 펄펄 눈이 쏟아져 내렸다. (冬の森に雪がこんこんと降りそそいだ。)【手紙】

(5)의 예의 「방실방실」(하하하하)는 하하하하로微笑んでいる状態であって,決して動作や状態の反復ではない。また,なすこともなく毎日暮らすさまをあらわしている「빈둥빈둥」(ぶらぶら),雨が激しく降るさまをあらわす「주룩주룩」(ざあざあ),小声で続けて物を言うさまをあらわす「중얼중얼」(ぶつぶつ),雪がさかんに降るさまをあらわす「펄펄」(こんこん)は,それぞれの状態が続いていることを反復形で表している。

さらに,次のような気分や感情など精神的状態を表わす擬情語も,反復形によってその状態が継続・持続していることを象徴するものと考えることができる。

(6) 큰아들은 너무도 놀라 가슴이 두근두근해서 말에게로 다가가 보았습니다. (長男はとても驚いてドキドキしながら馬に近づいてみました。)【童話】
 학기 중이면 학생들이 여기저기 테이프를 선을 그리고는 족구며 농구 따위를 하느라 늘 시끄러웠고, 그래서 안아슬 다닐 수밖에 없던 곳이었다. (学期中であれば学生があちこちにテープで線を引いてサッカーやバスケットなどをしていたもうるさく,そのためはらはらして通わざるを得なかった所だった。)【手紙】
 어안이병병해진 정수가 쭈뼛쭈뼛 뒷걸음질로 자신의 방을 향했다. (呆氣にとられたチョンスがもじもじ後ずさり自分の部屋に向かった。)【父】

次の(7)の例のように,動作や事象が進行するという意味を表わす場合がある。

(7) 우리가 사랑하는 만큼 그 나무들도 쑥쑥 자라날 거예요. (我々が愛すれば愛するほどその木々もすくすく育つでしょう。)【手紙】
 영훈이는 무럭무럭 잘 자라고 있다. (ヨンフンはすくすく育っている。)【手紙】

3.1.2 複数

《連続》と《複数》は全く異なる意味のようであるが、明確に区別できない場合が多い。《連続》は同一主体による動作や事象などが時間的に反復・継続されることを意味するのであるが、複数の主体による動作・事象を表わすのに反復形オノマトペが使われていると解釈できる場合がある。

- (8) 주먹밥을 다 꽃아놓고 멀리서 바라보니 주렁주렁 달린 것이 꼭 열매처럼 보였습니다. (おにぎりを全部付けて遠くから見ると、鈴なりにぶら下がっているのがまるで実のように見えました。)【童話】
 그 시절에는 산마다 호랑이들이 우글우글 했습니다. (その時分には山に虎がうようよいました。)【童話】
 허리를 펴고 곧게 쭉쭉 뻗은 나무들이 숲을 가득 메우고 있었다. (腰を伸ばしてまっすぐにすっと伸びた木々が森を一杯に埋めていた。)【手紙】
 옛날 도깨비가 득실득실 하던 시절의 이야기입니다. (昔、鬼がうじゃうじゃいた時の話です。)【童話】

(8) の例は、ほとんど《複数》の意味に解釈できるものである。「주렁주렁」(鈴なりに)は果物などがたくさんぶら下がっているようすを表わすオノマトペで、《複数》の意味を表わす。「우글우글」(うようよ)主体の「호랑이」(虎)には複数を表わす接尾辞「-들」が付いているし、「우글우글」(うようよ)は「群がってうごめくようす」を表わすオノマトペであるので、たとえ主体の「호랑이」が単数であっても《複数》の意味に解釈できる。また「쭉쭉」(すっと)は《連続》の意味として解釈できるかもしれないが、主体の「나무」(木)に複数を表わす接尾辞「-들」が付いているので《複数》の意味と見なせる。そして「득실득실」(うじゃうじゃ)の主体は単数であるが、オノマトペに「群がりうごめくようすを表わす」という意味をもっているので主体が単数であっても《複数》の意味として解釈できる。

3.1.3 強調

《強調》というのは多少注意を要する概念である。これは本来、強調形と非強調形(普通形)との対立を前提とする概念である。

次の例のような場合は、何かの程度が強くなるという意味の《強調》として解釈できる。

- (9) 이것은 뜨끈뜨끈한 아랫목에 이불을 씌워 한 삼십일 가량 그대로 놔두면 저절로 깨어납니다. (これはぽかぽかのオンドルの部屋にふとんをかぶせて、30日くらい置いておくと独りでにかえります。)【童話】
 …무우와 배추를 납작납작하게 썰어놓고 국물 맛이 시콤새콤한 것이 무엇이나? (…大根と白菜を平べったく切ってあって、スープの味が酸っぱいのは何だね。)【童話】
비실비실한 것들만 골라 사자에게 보냈습니다.
 (よろよろしたものだけ選んでライオンに送りました。)【童話】
 호랑이의 꼬리는 그만 얼음에 꽂꽂 얼어 붙어버렸습니다.
 (虎のしっぽはかちかちに凍ってしまいました。)【童話】
박박 밀어 둥그런 환유 머리 위에는 눈으로 셀수 있을 만큼 적은 수의 머리칼이 이끼처럼 돌아나 있었다.
 (髪を短く刈って丸いファニユの頭の上には数えられるくらい少ない髪の毛がこけのように生えていた。)【手紙】

ある形式が強調形であると言うためには、それと意味を同じくする別な形式が存在し、前者は後者の意味を何らかの点で強めているという関係が成立しなければならない。このような観点から(9)の例を見ると、「뜨끈뜨끈하다」(ぽかぽかとしている)、「납작납작하게」(平べったく)は明確な強調形である。これらはいずれも派生的な反復形であり、それぞれ「뜨끈하다」(非常に熱い)、「납작하게」(平たく)の単一形に対応し、その意味を強めた表現であると考えられる。

その他の反復形オノマトペには対応する単一形式のオノマトペはないから、これらを明確に強調形であると言い難い。しかし、これらの表現が反復形という形式を取っている背後には何らかの象徴的意味が感じられるこ

とも否定できない。その意味が《連続》や《複数》であるとは考えにくいし、特別な意味範疇を設けることも適当であるとは思われない。そして、明確な強調形の場合と象徴的意味の点で大きく異なっているようには思われない。したがって、対応する非強調的表現を欠いてはいるけれども、これらもすべて《強調》の意味を表わすものとして分類することにする。言わば、架空の非強調（普通形）に対する強調とみなすのである。

3. 不完全反復形（類音反復形）

3.1 母音交替

不完全反復形の母音交替は後半部の語頭の中声が交替されて造られる。以下(10)に示す母音交替による不完全反復形の例のほとんどは、前半部と後半部がほぼ近い意味をもっていて母音が交替されても基本的な意味変化はない。

(10) a) 으~아

뜨끔따끔 (針に刺されたり殴られたりうずいたりして痛むようす：ちくちく，ひりひり)：뜨끔뜨끔 (ちくちく) ~따끔따끔 (ひりひり)

뜨끈따끈 (あつあつ)：뜨끈뜨끈 (非常に熱く感じるようす：ほかほか) ~따끈따끈 (あつあつ)

슬금살금 (人の目を盗んでひそかに物事をするさま：こっそり)：슬금슬금 (こそこそ) ~살금살금 (人の目を盗んでひそかに物事をするさま：こっそり)

썩썩 (ごしごし)：썩썩 (あまり力を入れずゆっくりこすったりもんだりする音) ~썩썩 (ごしごしこすったりもんだりする音)

b) 이~아

찌그락찌그락 (ささいなことで言争ったり，愚痴をこぼしたりするようす：ごたごた)：찌그럭찌그럭 (ぶつぶつ) ~짜그락짜그락 (いがみ合ったり不平を並べたりするようす)

c) 이~야

일긱알긱 (がたごと，ぐらぐら)：일긱일긱 (家具などが傷んでぐらつくようす：がたがた，ぐらぐら)

일기죽알기죽 (氣取って歩くようす：しゃなりしゃなり)：일기죽일기죽 (腰を左右にゆっくり振りながら歩くようす：しゃなりしゃなり，くねくね) ~알기죽알기죽 (腰をゆっくりと揺らすようす：ふらふら)

d) 이~애

미끈매끈 (すべすべ)：미끈미끈 (ぬるぬる) ~매끈매끈 (すべすべ)

실긱샅긱 (しきりに一方にゆがめたり傾けたりするようす)：실긱실긱 (しきりに片方にゆがめたり傾けたりするようす) ~샅긱샅긱 (しきりに傾いたりゆがんだりするようす)

실기죽샅기죽 (しきりに片方にゆがめるようす：ひくひく)

싱글생글 (にこにこ)：싱글싱글 (にこにこ) ~생글생글 (しきりにこやかに笑うさま：にこにこ)

썰룩썰룩 (びくびく)：썰룩썰룩 (びくびく) ~썰룩썰룩 (びくびく)

실룩샅룩 (びくびく)：실룩실룩 (びくびく) ~샅룩샅룩 (びくびく)

티격태격 (言い争うさま：いざこざ)：티격 (そりが合わないこと)

* 싱송생송 (心が浮ついて落ち着かないようす：そわそわ，うきうき)

e) 우~아

물끄림말끄림 (何も言わず顔を見つめ合うようす：まじまじと)：물끄러미 (視線をそらさないで見据えるようす：じっと) ~말끄러미 (まじまじと，じっと)

f) 의~애

희롱해롱 (ふざけて戯れるようす：へらへら，いちゃいちゃ)：희롱희롱 (ふざけて戯れるさま：へらへら，いちゃいちゃ) ~해롱해롱 (しきりにふざけるようす：へらへら)

(10) の例のように不完全反復形の母音交替は、前半部の母音「으, 이, 우, 의」は高母音、後半部の母音は「아, 야, 애」は低母音で高低の対立がある。このような母音交替が行われても意味変化がなく、本来の意味を保っている。しかし、母音交替によって韓国語オノマトペの音楽性特徴がより一層引き立てられているように考えられる。

a) から f) までの例を見ると、ほとんどの例が前半部にも後半部にも意味をもっている。しかし, c) 「일긱알긱 (がたごと, ぐらぐら)」, d) 「타격태격 (言い争うさま: いざこざ)」の場合, 前半部にのみ明確な意味を持っている。また, 「*」印がついている「싱송생송 (心が浮ついて落ち着かないようす: そわそわ, うきうき)」は, 前半部にも後半部にも明確な意味を持っていない例である。さらに e) 「물끄러말끄러 (何も言わず顔を見つめ合うようす: まじまじと)」は, 前半部と後半部は副詞形を名詞形にして反復させた特異な例である。

3.2 子音交替

不完全反復形の子音交替形は完全反復形の子音交替のように平音, 濃音, 激音の交替によって語感の差をあらわすのではなく, 前半部の語頭の初声は無音「ㅇ」で, 後半部の語頭の初声は音声上全く関連性のないものに交替される。したがって, 前半部と後半部は意味の関連性が極めて低いと言える。以下 (11) は前半部と後半部の語頭の初声が交替された例である。

(11) a) ㅇ～ㅅ

얼씨구절씨구 (興に乗ってはやす言葉: よいやよいやさ): 얼씨구 ((興に乗って出す語: よいやよいやさ)
 얼싸절싸 (興に乗って跳ね回るようす: よいやよいや): 얼싸 (興に乗って出す語: そおれ)
 오밀조밀 (几帳面で細かいようす): 조밀하다 (稠密だ)
 오목조목 (やや大きいものとやや小さいものが揃わず凸凹しているようす): 오목 (中が丸くくぼんでいるようす)
 울막줄막 (小さい塊のようなものが不揃いに多いようす): 줄망줄망 (でこぼこ)
 울망줄망 (かわいらしく小さい物が不揃いに多く並んでいるようす): 줄망줄망 (でこぼこ)
 울먹줄먹 (大小さまざまに, 不揃いに): 줄먹줄먹 (でこぼこ, ごろごろ)
 울명줄명 (大小さまざまにあるようす): 줄명줄명 (こちゃこちゃ)
 웅기중기 (大きさの不揃いな物が集まっているようす): 웅기웅기 (小さい物が群がっているようす: うようよ)
 울레줄레 (多くの人が一団となって行くようす: そろそろ): 줄레줄레 (ちょこちょこ, ふらふら)

- * 오롱조롱 (多くのものが一様でなく各々異なるようす: さまざまに, 色とりどりに)
- * 울목줄목 (大小の塊が不揃いにぎっしり並んでいるようす)
- * 울몽줄몽 (かわいらしい大小の塊がぎっしり並んでいるようす)
- * 울묵줄묵 (不揃いに散らばっているようす: ごろごろ)
- * 울몽줄몽 (大きな塊がたくさんあるようす)
- * 우묵주목 (所々が不揃いにへこんでいるようす: でこぼこして)
- * 웅기중기 (大きさの違うものがまばらに集まっているようす)
- * 아기자기 (むつまじく楽しいようす)
- * 억박적박 (まぜこぜに交差するさま)
- * 영기정기 (あちこち散らばっているようす: ばらばら, ちりちり)

b) ㅇ～ㅁ

우물쭈물 (ぐずぐず, もたもた): 우물우물 (もじもじ)
 오물쭈물 (ぐずぐず, まごまご): 오물오물 (ぼそぼそ)
 우글쭈글 (あちこちへこんでしわが寄っているようす: くちゃくちゃ): 쭈글쭈글 (しわくちゃ, しわしわ, くちゃくちゃ)

우그렁쭈그렁 (あちこちへこんでしわができていようす): 우그렁우그렁 (あちこちへこんでいようす)
 오글쭈글 (非常にしわだらけなようす: くしゃくしゃ, しわくちゃ): 쭈글쭈글 (しわだらけのようす, し
 わくちゃ, くしゃくしゃ)

웅긔웅긔 (ところどころ不揃いに頭を突き出したようす): 웅긔웅긔 (大ききの似ているものが突き出てい
 るようす: によきによき) ~쭈긔 (つんと, ぴんと)

c) ㅇ~ㅅ

올랑출랑 (さざ波があちこちぶつかるようす: ちゃぽちゃぽ): 올랑올랑 (波がうねるようす)

울렁출렁 (液体が揺れるようす: ゆらゆら, たっぱんたっぱん): 울렁울렁 (ゆらゆら) ~출렁출렁 (ざぶ
 んざぶん, だぶだぶ)

d) ㅇ~ㅍ

아삭바삭 (さくさく): 아삭아삭 (さくさく) ~바삭바삭 (かさかさ)

아득바득 (ある物事に執念を燃やすようす: ねちねち): 바득바득 (しきりに我を張るようす: しつこく)

아등바등 (意地になって我を張ったり精一杯努力したりするさま: がりがり): 바등거리다 (じたばたする,
 もがく)

아장바장 (目的もなく歩き回るようす: ぶらぶら): 아장아장 (よちよち) ~바장바장 (うろうろ)

어정버정 (用もなく歩き回るようす: うろうろ): 어정어정 (のそのそ, うろうろ) ~버정이다 (ぼんやり
 と歩き回る, ぶらつく)

양실방실 (かわいらしく笑うようす: にこにこ): 방실방실 (にこにこ)

엇글엇글 (子供が声を出さずに笑うようす: にこにこ): 엇글엇글 (にこにこ) ~엇글엇글 (にこにこ)

어근머근 (がたがた, ちぐはぐ): 머근하다 (がたがたしている)

어긔머긔 (一樣でないようす: ちぐはぐ): 어긔머긔 (ちぐはぐ) ~머긔하다 (やや隙間があいている)

울쑥불쑥 (山の峰などが高く低く不揃いにそびえているようす: 巍々と): 불쑥 (急に現れたり突き出たり
 するようす: によっと)

울경불경 (固くて弾力のある食べ物がよくかめずに口の中であちこち滑ったり, はみ出しそうになるよう
 す): 울경울경 (固くて弾力のある食べ物がよくかめずに口の中であちこち滑るようす) ~불경거리다 (も
 ぐもぐと動く)

울룩불룩 (でこぼこなようす): 불룩 (膨らんだようす)

울룩불룩 (でこぼこ): 불룩 (ふっくら)

울통불통 (でこぼこ): 불통불통 (でこぼこ)

울툭불툭 (でこぼこ): 불통불통 (でこぼこ)

울통불통 (でこぼこ): 불통불통 (でこぼこ)

울뚝불뚝 (でこぼこ): 불뚝 (ぽこっと)

울고불고 (泣いたりわめいたりするようす): 울다 (泣く)

울긔불긔 (色とりどり): 불긔불긔 (あっちこっちが赤みがかかっているようす)

* 아근바근 (ゆるんで動くようす: がたぴし)

* 엇정병정 (どうでもよいことを並べ立てるようす)

* 엇이야 병이야 (物事を一時しのぎに取り繕うようす)

e) ㅇ~ㄷ

아롱다롱 (点・紋様などが不揃いにちりばめられたようす): 아롱아롱 (まだらに)

알락달락 (まだらなようす, 色とりどりなようす): 알락 (まだら)

알록달록 (斑点や縞模様がまばらにまだらなようす): 알록알록 (まだらなようす)

알롱달롱 (まばらにまだらなようす): 알롱알롱 (一樣にまだらなようす)

알쫘달쫘 (まだらなようす): 알쫘알쫘 (まだらなようす)

어룽더룽 (薄い色の線や点が不揃いにまだらなようす): 어룽어룽 (点・模様が一樣に密に散らばっている)

ようす)
 얼룩덜룩 (まだらになっているようす) : 얼룩얼룩 (まだらになっているようす)
 얼멍얼멍 (粥・糊などの中にだまがあちこちにあるようす) : 얼멍얼멍 (粥・糊などが一様に溶けずにだまになっているようす)
 얼럭덜럭 (まだらになっているようす) : 얼럭얼럭 (点々とまだらになっているようす)
 얼룩덜룩 (まだらになっているようす) : 얼룩얼룩 (まだらになっているようす)
 얼쑤덜쑤 (模様・色などが雑然と入り交じってまだらに) : 얼쑤얼쑤 (まだらなようす)
 엎치락엎치락 (しきりに倒れたり覆いかぶさったりするようす) : 엎치다 (伏せる) ~ 덮치다 (覆いかぶさる)
 엎병뎡병 (あたふた) : 엎병하다 (いいかげんだ, でたらめだ) ~ 뎡병뎡병 (あたふた)

* 알라꿍달라꿍 (色がけばけばしくてまだらなようす)

f) ㅇ ~ ㄴ

* 얼기설기 (糸などがもつれて入り乱れているようす)

* 얼키설키 (もつれ絡まっているようす, ごしゃごしゃ)

g) ㅇ ~ ㄷ

우불구불 (曲りくねったようす : くねくね) : 구불구불 (くねくね)

h) ㄴ ~ ㄹ

상긱방긱 (続けてかわいらしく笑うようす : にこにこ) : 상긱 (にこっと) ~ 방긱 (にっこりと)

성긱병긱 (ひとりで声を出さず笑うようす : にこにこ) : 성긱 (にこっと) ~ 병긱 (にこっと)

생긱뻥긱 (うれしそうににこにこほえむようす : にこにこ) : 생긱 (にこっと) ~ 뻥긱 (にっこりと)

싱긱빙긱 (にこにこ) : 싱긱 (にこっと) ~ 빙긱 (にこっと)

성글병글 (声を出さずに優しく笑うようす : にこにこ) : 성글성글 (にこにこ) ~ 병글병글 (にこにこ)

생글뻥글 (うれしそうに笑うようす : にこにこ) : 생글생글 (にこにこ) ~ 뻥글뻥글 (にこにこ)

不完全反復形の子音交替形と3.3で述べる音節交替形の前半部と後半部の並べ方をみると、次のようなことが考えられる。(11) a) から g) までの例と (12) a) から e) までの例はいずれも前半部は母音(あるいは半母音)で始まり後半部は子音で始まっている。韓国語のオノマトペにはこのような配列の不完全反復形が非常に多い。この逆の配列順序のもの、つまり、前半部が子音で始まり後半部が母音に始まるという構成の不完全反復形は1個も見られない。これは明らかに母音で始まる要素を先行させる規則が働いている⁵⁾。(11) の例は h) を除いて、前半部の語頭初声は無音「ㅇ」で、後半部の語頭初声は多くが「ㄴ, ㄹ, ㄷ」である。不完全反復形の子音交替形は完全反復形の子音交替のように平音、濃音、激音の交替によって語感の差をあらわすのではなく、前半部の語頭初声は無音「ㅇ」で、後半部の語頭初声は音声上全く関連性のないものに交替される。したがって、前半部と後半部は意味の関連性が極めて低いと言える。また、不完全反復形の子音交替形は母音交替形のように前半部にも後半部にも近い意味があるのではなく、前半部あるいは後半部のどちらかが意味をあらわすものが多い。上記の例の中に「*」印が付いているものは前半部も後半部も意味が明確ではない不完全反復形である。a) と d) の例には、「でこぼこ」、「不揃い」な状態をあらわすオノマトペが多い。e) には「まだら」なようすをあらわすオノマトペの異形が特に多い。h) は前半部が無音「ㅇ」ではなく、「ㄴ ~ ㄹ」の交替形であるが、「笑う」ようすをあらわすオノマトペが多く見られる。a) 「오밀조밀 (几帳面で細かいようす)」は後半部の漢字語「조밀 [稠密]」に「오밀」が結合された例である。d) 「울고불고 (泣いたりわめいたりするようす)」は動詞「울다 (泣く)」から得られた「울고」に「불고」が結合されたが、「불고」には何の意味もなく、「울고」としか結びつかない。e) 「엎치락엎치락 (しきりに倒れたり覆いかぶさったりするようす)」は動詞「엎치다 (伏せる)」と「덮치다 (覆いかぶさる)」の語幹に「- 락」が付いた例である。

3.3 音節交替

不完全反復形には音節交替形があり、母音交替や子音交替のように前半部あるいは後半部の母音や子音が交替されたのではなく、1音節全体が交替されるものである。

(12) a) ○～ㄱ

옥신각신 (言い争うようす：あだこうだ)：옥신옥신 (あでもないこうでもないと言い争うようす)

* 애먼글면 (力に余ることをなし遂げるために精出すようす)

b) ○～ㄷ

엎치락뒤치락 (寝付けずに何度も寝返りをうつようす)：엎다 (ひっくり返す、伏せる)

옥시글득시글 (群がってひしめくようす：うようよ)：옥시글옥시글 (うようよ)

옥신덕신 (人がひしめき合うようす)：옥신옥신 (人や動物が入り乱れてひしめき合うようす)

왁다글닥다글 (小さくて固い物が騒がしくぶつかり合いながら転がる音：からころからころ)：왁다글왁다글 (からんからん)

왁시글덱시글 (多くの人・動物が一か所に集まって入り乱れて騒ぐようす)：왁시글왁시글 (込み合うようす)

왁가닥달가닥 (がちゃがちゃ)：왁가닥왁가닥 (がちゃがちゃ)

왁가닥덜거덜 (가ちゃんがちゃん)：왁가닥왁가닥 (가ちゃ가ちゃ)

왁그랑땡그랑 (風鈴・馬の鈴などが揺れながら鳴る音：ちゃりんちゃりん)：왁그랑왁그랑 (ちゃりんちゃりん)

* 왁장달장 (いくつかの固い物がぶつかり合って出す音：가ちゃ가ちゃ)

* 왕배덕배 (なんだかんだ、あだこうだ)

c) ○～ㄴ

인성만성 (多くの人が集まってごった返しているようす：가야가야)：인성 [人声]

d) ○～ㄹ

어뜩비뜩 (秩序なく乱れているようす：くねくね)：어뜩어뜩 (しきりにめまいがするさま)

어칠비칠 (ふらふら、よろよろ)：어칠어칠 (のそのそ、とぼとぼ)

안절부절 (そわそわ)：안절부절못하다 (そわそわする)

왁달박달 (行動や性質が端正でなく、軽薄で荒々しいようす)：왁다글왁다글 (からんからん)

왜쪽비쪽 (ちょっとしたことで腹を立てて口をとがらすようす)：왜쪽왜쪽 (ちょっとしたことで腹を立てて口をとがらすようす)

왜틀비틀 (体をふらふら振りながら歩くようす：よろよろ)：비틀비틀 (ふらふら、よろよろ)

e) ○～ㅁ

우글지글 (液体が沸き上がるようす：ぐらぐら)：우글우글 (湯がしきりに沸くようす：ぐらぐら)

f) ㅇ～ㄴ

흥청망청 (お金や物をむやみやたらに使ってしまうようす)：흥청흥청 (金をふんだんに使うようす)

흐리마리 (はっきりしないようす：ぼうっと)：흐리다 (言葉を濁す)

g) ㅇ～ㄷ

* 헤실바실 (知らぬ間になくなるようす), * 흐슬부슬 (粘り気がないようす：ぱさぱさ)

h) ㅇ～ㅁ

허둥지둥 (あわてて、あたふた)：허둥허둥 (うろろうろ、じたばた、あたふた)

허겁지겁 (非常に驚いたり慌てたりするようす：あたふた)：허겁 [虚怯] = 臆病

허덕지덕 (あえぎあえぎ、あくせく)：허덕허덕 (苦しむようす、あくせくするようす)

i) ㄱ~ㅅ

*가리산지리산 (迷ってどうしてよいかとあたふたするようす：うろうろ)

*갈팡질팡 (迷ってどうしてよいかとあたふたするようす：うろうろ)

j) ㄱ~ㄹ

곤드레만드레 (べろんべろん, ぐでんぐでん) : 곤드라지다 (過労・眠気または酒に酔って正体なく眠る)

k) ㄷ~ㄴ

들쭉날쭉 (でこぼこしているようす) : 들다 (入る) ~나다 (出る)

l) ㄷ~ㅁ

뒤죽박죽 (ごった返しているようす : ごちゃごちゃ, めちゃくちゃ) : 뒤지다 (くまなく探す)

m) ㅁ~ㅂ

바라사라 (大変忙しく立ち回るようす : あたふた) : 바라바라 (大急ぎで, あたふた)

n) ㅅ~ㅎ

*진동한동 (とても慌ただしいようす : ばたばた)

o) ㅂ~ㅅ

싱글빙글 (いかにもうれしそうに微笑むようす : にこにこ) : 싱글싱글 (にこにこ) ~빙글빙글 (にこにこ)

싱긋빙긋 (にこにこ) : 싱긋싱긋 (にこにこ) ~빙긋빙긋 (にこにこ)

시들부들 (ややしおれて柔らかいようす) : 시들시들 (ややしおれて生気のないようす)

시드릭부드릭 (花・草木などがだんだんしおれていくようす) : 시드릭시드릭 (花や草などがしおれて潤い
のないようす)

p) ㅊ~ㅌ

*쿵팔칠팔 (とりとめなくしゃべりまくるようす : あれやこれや)

(12) の音節交替形の前半部と後半部の並べ方を見ると, 前述したように (12) a) から e) までの例はいずれも前半部は母音 (あるいは半母音) で始まり後半部は子音で始まっている。これは母音で始まる要素を先行させる規則が働いている。また, f), g), h) は前半部に「ㅎ /h/」で始まる要素を先行させる規則が働いている。また, 後半部の語頭の初声に「ㄷ, ㅁ, ㅂ」が目立つのは子音交替形と一致している。音節交替形は通常, 前半部が意味をあらわし, 後半部は特に意味はなく口調を整えるために交替形を造っている場合が多い。

c) 「인성만성 (多くの人が集まってごった返しているようす : がやがや)」, h) 「허겁지겁 (非常に驚いたり慌てたりするようす : あたふた)」はそれぞれ漢字語「인성 [人声]」に「만성」が, 「허겁 [虚怯] = 臆病」に「지겁」が結合した例である。しかし, d) 「왜틀비틀 (よろよろ)」は後半部に意味があり, 「비틀비틀」(ふらふら, よろよろ) の単一形「비틀」に「왜틀」が付いた例である。また, k) 「들쭉날쭉 (でこぼこしているようす)」は動詞「들다 (入る)」と「나다 (出る)」に「- 쭉」が結合した例である。また, 「*」印がついている例は前半部, 後半部どちらにも意味がはっきりしないものである。

3.4 不完全反復形 (類音反復形) の意味機能

不完全反復形は完全反復形のように同一の要素を反復するのではなく, 音の一部を変えて反復するものである。したがって, 完全反復形の意味機能である《連続》, 《複数》, 《強調》以外に何かのニュアンスを追加しようとする時, 不完全反復形を使うことによって完全反復形と異なる語感を持つ。つまり不完全反復形は完全反復形で表現できない範囲を補っているといえよう。不完全反復形の意味には多様性や人間の心情が含まれており, 接続詞 and の機能がある。また聞き手に対して音的にリズムカルで愛嬌のある響きを与え, 話し手の心情やニュアンスを主観的に表現したものである。不完全反復形のここでの意味区分は《多様》, 《心情》に分けることとする。

3.2.1 多様

《多様》は, 物の色や形や配置などが多様であること, 均質でなく不揃いであること, 整然としていないこ

と、などの不規則さ、不確実さを意味する。不完全反復形には、特に《多様》である象徴的意味を持つオノマトペが際立って多い。このような表現が豊富であることは韓国人の物の見方を反映しており、韓国語の特徴の一つであるといえる。

- (13) 그 해 가을, 왜 여태 울긋불긋 화려하게만 보이던 단풍잎이 자꾸만 쓸쓸하게 보이기 시작했는지요. (その年の秋, 今まで色とりどりに華やかに見えた紅葉がなぜ寂しく見え始めたのでしょうか。)【創作童話3回】
관사 앞 너른 마당 한 구석에 양증맞은 꽃화분들이 웅기웅기 모여 있었다. (官舎の前の広い庭の片隅にかわいらしい大きさの不ぞろいな花鉢が集めてあった。)【手紙】
빛깔이 거무스레하고 살갗이 울퉁불퉁하여 보기가 징그러웠습니다. (色が浅黒く肌が凸凹していて氣味が悪かったです。)【童話(チ)】
그런데도 세간이고 장독이고 하나도 자리를 못 잡고 뒤죽박죽으로 널부러져 있으니까 폐가 직전처럼 퇴락해 보였다. (それでも家財道具などが全く片付かずごった返しているので廃家寸前のように見えた。)【彼】

(13)의 예는, 《多様》であると意味解釈できるものである。「울긋불긋(色とりどり)」はその典型的な例である。完全反復形の「불긋불긋」は、あっちこっちが赤みがかかっているようすを表わしているが、「울긋불긋」は色とりどりに《多様》な色が入り交じっているさまを表わしている。また、完全反復形「웅기웅기」は、背丈の同じくらいの子供や物などがかわいらしく群がっているさまを表わしているのに対して、不完全反復形「웅기웅기」は大きさの不揃いな物が集まっているようすをあらわしている。

「울퉁불퉁(でこぼこ)」では、意味は後半部「불퉁<불퉁불퉁(でこぼこ)」があらわし、前半部の「울퉁」は意味はなく口調を整えるために結合されたものであると考えられる。

「뒤죽박죽(ごちゃごちゃ)」は「뒤적뒤적(しきりにさがすようすをあらわす: ごそごそ)」から派生した不完全反復形で整然としていない状態をあらわしている。

3.2.2 心情

総じて、心像に描かれたイメージは一言で表現できない場合が多い。3.2.1の《多様》とはまた異なる意味区別として、心の中の何かが確実であるけど、確実ではない複雑で微妙な心的状態が反映された所感や判断の《心情》をあらわす象徴的な意味がある。

- (14) 이웃집에 사는 준호 어머니가 허겁지겁 건너오셨다. (隣に住んでいるジュノのお母さんがあわてていらっしゃいました。)【創作童話8回】
여러 날이 지난 후에야 그 소문을 듣고 허둥지둥 찾아왔습니다. (何日か過ぎた後にその噂を聞いて大急ぎで訪ねて来ました。)【童話】
순간 도깨비들은 갈팡질팡 당황하더니 스르르 사라지고 말았다. (瞬間, 鬼たちはあたふたあわてふためいてずっと消えてしまった。)【童話71】
경찰관은 그들이 울어대자 안절부절 서성댔습니다. (警察官は彼らが泣き出すとそわそわして歩き回った。)【創作童話3回】
세 딸들은 모였다하면 서로 자기가 아버지의 재산을 더 많이 물려받아야 한다면서 옥신각신하였다. (3人の娘は集まるといつも自分が父親の財産をもっと多く相続してもらわないといけないと言い争っていた。)【童話71】
병사는 흥분한 목소리로 저 혼자 횡설수설했다. (兵士は興奮した声ででたらめをやたらにしゃべった。)【創作童話3回】

(14)의 예는, 落ち着かず, 混乱している《心情》を表したオノマトペである。「허겁지겁(あたふた)」, 「허둥지둥(大急ぎで)」は、慌てて行動する様子を表したオノマトペである。また, 「갈팡질팡(あたふた)」, 「안절부절(そわそわ)」は混乱し落ち着かない様子を表したもので, 「갈팡질팡」はただ慌てる様子を表している

が、「안절부절」も落ち着かない様子で居ても立ってもいられない状態を表している。また「옥신각신（あだこうだ）」、「횡설수설（でたらめを述べる）」は行動を伴うものではなく、混乱した心的状態で「話す」様子をオノマトベで表現している。

4. ま と め

本稿は、韓国語オノマトベの完全反復形（同音反復形）と不完全反復形（類音反復形）の音声交替による音声象徴と意味機能について論じた。完全反復形には母音交替、子音交替によって交替形を造り、それぞれ象徴的な意味を持っている。母音交替は生産的であり、語感の差も明確である。韓国語の母音は陽母音（아, 애, 야, 오, 외, 요, 와, 왜, 야）と陰母音（어, 에, 여, 우, 위, 유, 워, 으, 이, 의）に区分され、陽母音は軽・明・清・薄・剛・強・近・親・小・少・急・短・狭・濃・細の語感を持ち、陰母音は重・暗・濁・厚・柔・弱・遠・疎・大・多・緩・長・広・淡・太の語感をあらわし、陽母音と陰母音は対立している。子音交替は平音・濃音・激音の子音交替による交替形を造り、程度や大きさなどの違いによる語感の差によって平音<濃音<激音の順で、平音に比べて濃音は強い語感を、激音は激しい語感を表わす。このような完全反復形の意味機能としては《連続》、《複数》、《強調》に分類できる。

不完全反復形の交替形には母音交替、子音交替、音節交替による交替形がある。母音交替形は後半部の語頭中声が交替されて造られるが、前半部と後半部はほぼ近い意味をもって母音が交替されても基本的な意味変化はない。しかし、母音交替によって韓国語オノマトベの音楽性特徴がより一層引き立てられていると思われる。

子音交替は、前半部の語頭初声は無音「ㅇ」で、後半部の語頭初声は音声上関連のないものに交替されるので、前半部と後半部とは意味の関連性が低いと考えられる。また子音交替形の前半部と後半部の並べ方をみると、前半部は母音（あるいは半母音）で始まり後半部は子音で始まっている。韓国語オノマトベにはこのような配列の不完全反復形が非常に多い。これは母音で始まる要素を先行させる規則が働いている。前半部の語頭の初声は無音「ㅇ」で、後半部の語頭の初声は多くが「ㅍ, ㅂ, ㅅ」である。音節交替形は前半部あるいは後半部の母音や子音が交替されたのではなく、1音節全体が交替されるものをいう。音節交替形の前半部と後半部の並べ方を見ると、2つの配列規則がある。1つ目は、前半部は母音（あるいは半母音）で始まり後半部は子音で始まるという母音で始まる要素を先行させる規則が働いている。2つ目は、「ㅇ /h/」で始まる要素も先行させる規則が働いている。後半部の語頭初声に「ㄷ, ㅂ, ㅅ」が目立つのは子音交替形と一致している。音節交替形は通常、前半部が意味をあらわし、後半部には特に意味がなく口調を整えるために交替形を造っている場合が多い。これは韓国語オノマトベの特徴である音楽性に貢献している。不完全反復形は完全反復形の意味機能である《連続》、《複数》、《強調》以外に何かのニュアンスを追加しようとする時、不完全反復形を用いることによって完全反復形と異なる語感を持つ。不完全反復形の意味機能として《多様》、《心情》に分けることができる。完全反復形と不完全反復形の交替形は韓国語オノマトベの特徴である音声交替による音声象徴を反映している。

本稿は、李殷娥（2001）『日本語と韓国語のオノマトベに関する対照研究』名古屋大学大学院国際開発研究科博士学位論文の第2章、第3章に基づいて大幅に加筆修正した。

参考文献

- 青山秀夫（1977）「朝鮮語の音声象徴」『月刊言語』6-10大修館書店 pp.26-33
- 李殷娥（1998）「日本語と韓国語のオノマトベに関して ―反復形式を中心に―」『国際開発研究フォーラム』（名古屋大学大学院国際開発研究科）第10号 pp.73-88
- （2001）『日本語と韓国語のオノマトベに関する対照研究』名古屋大学大学院国際開発研究科博士学位論文
- 菅野裕臣（1986）「オノマトベの響き<豊かな語彙と音> [擬声擬態語, バタン]」『月刊言語』15-11 pp.54-59
- 田守育啓／ローレンス・スコウラップ（1999）『オノマトベ ―形態と意味―』くろしお出版
- 野間秀樹（1990）「朝鮮語のオノマトベ ―擬声擬態語の境界画定、音と形式、音と意味について― [音象徴、音節構造、音節末音法則]」『学習院大学言語共同研究所紀要』13 pp. 24-47

韓国語文献

- 宋喆儀 (1992) 『国語의 派生語形成研究』 国語学会：ソウル
 李崇寧 (1978) 「国語音声象徴論について」『言語』3卷1号 韓国言語学会：ソウル pp. 1-18
 이익섭／이상익／채완 (イ・イッソプ／イ・サンオク／チェ・ワン) (1997) 『한국의 언어 (韓國の言語)』 シング文化社：ソウル
 이호영 (イ・ホヨン) (1996) 『국어 음성학 (国語音声学)』 太学社：ソウル
 채완 (チェ・ワン) (2003) 『한국어의 의성어와 의태어 (韓國語の擬声語と擬態語)』 ソウル大学出版部：ソウル

参考資料

- 青山秀夫 (1991) 『朝鮮語象徴語辞典』 大学書林
 油谷幸利他編 (1993) 『朝鮮語辞典』 小学館
 延世大学校言語情報開発研究院編 (1998) 『延世韓国語辞典』 斗山東亜：ソウル

出典一覧

- 강정훈 (カン・チョンフン) 他著 (2001) 『제8회 우수 창작동화 20 (第8回優秀創作童話20)』 대교출판：소울 【創作童話8回】
 김정현 (キム・チョンヒョン) 著 (1996) 『아버지 (父)』 문이당：소울 【父】
 공지영 (コン・チヨン) 著 (1998) 『봉순이 언니 (ボンスニオンニ)』 푸른금：소울 【ボンスン】
 길지연 (キル・チヨン) 他著 (2002) 『제9회 우수 창작동화 20 (第9回優秀創作童話20)』 대교출판：소울 【創作童話9回】
 권형술 (クォン・ヒョンスル) 著 (1997) 『편지 (手紙)』 바다출판사：소울 【手紙】
 이효성 (イ・ヒョソン) 著 (2005) 『한국전래동화 (韓國伝来童話)』 지경사：소울 【童話(チ)】
 임지숙 (イム・チスク) 著 (2005) 『전래동화71가지 (伝来童話71種)』 세상모든책：소울 【童話71】
 지선옥 (チ・ソンオク) 編 (1995) 『한국전래동화 (韓國伝来童話) 上・下』 바른사：소울 【童話】
 최은섭 (チェ・ウンソップ) 他著 (1996) 『제3회 우수 창작동화 20 (第3回優秀創作童話20)』 대교출판：소울 【創作童話3回】

注

- 1 音象徴あるいは音声表象ともいう。語の音と意味との関係は任意的であり、必然的・自然的関係はないのが普通である。しかし、例外的な場合として、擬声語や擬態語ではこの音と意味との関係が自然的であると感じられる。このような関係を音声表象と呼ぶ。
- 2 李崇寧 (1978) 「国語音声象徴論について」『言語』第3卷1号 韓国言語学会 pp.1-18
- 3 平音は強い息を伴わない音で, 「ㄱ, ㄴ, ㄷ, ㄹ, ㅂ」があり, 濃音はほとんど息と伴わず, 喉の緊張を伴う音で, 「ㄲ, ㄴㄷ, ㄸ, ㅃ, ㅆ」があり, 激音は強い息を伴う音で, 「ㅋ, ㆁ, ㆆ, ㆏」がある。
- 4 ≪反復・継続≫の意味区分でもいいが, 音や声, 動作や事象が反復・継続・持続することを包括的に表現して≪連続≫という意味区分とした。
- 5 飯田秀敏 (1993) 「「あちこち」と「여기저기」」『ことばの科学』(名古屋大学言語文化部言語文化研究会) 第6号 pp.181-197